

## 指導者からみる部活動構成員の立場および役割における理想と現実

Ideal and Actuality in the Position and the Role of the Member of a Team Who Judges from Coaches.

畝 中 智 志      横 山 茜 理  
UNENAKA    Satoshi      YOKOYAMA    Akari

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究所年報 第12号 2021

Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Laboratory Hokusho University Vol. 12

## 指導者からみる部活動構成員の立場および役割における理想と現実

### Ideal and Actuality in the Position and the Role of the Member of a Team Who Judges from Coaches.

畝 中 智 志<sup>1)</sup> 横 山 茜 理<sup>1)</sup>

UNENAKA Satoshi<sup>1)</sup> YOKOYAMA Akari<sup>1)</sup>

キーワード：大学部活動, 指導観, アンケート調査

#### I. はじめに

大学の部活動\*を円滑に進めるためには、その構成員となる学生(選手・スタッフ)、指導的立場にある者(教員や外部指導者など)、関係する立場の者(トレーナーなど)が協力して運営を行わなければならない。プロや企業の持つチームなどはその役割に対して報酬が支払われるため、役割や立場が明確化されていることが多い。また、中学・高校の部活動では教育的な面が重要視され<sup>1)</sup>、社会的な責任能力の点から考えても指導的立場にある教員などが多くの役割を担っている。

大学における部活動では、教育的な目的を含みつつも、成人者も見られて責任も負えるようになることから学生が主体となって活動が行われることが理想と考えられる<sup>2)</sup>。その中において、指導的立場にある者は円滑な運営や競技目標達成、学生の人間的成長の達成のために、部の構成員の立場や役割に頭を悩ませることもある。

構成員の立場や役割の理想や「学生主体」の捉え方は、指導的立場にある者で統一されているわけではなく、指導者それぞれの考え(コーチングフィロソフィー)によって様々である。例えば、部の目標や方針は学生が決めるが、その方法(練習の仕方)は指導者が決めるのが良いと考える指導者もいれば、目標や方針を指導者が決めて方法を学生に考えさせる指導者もいるだろう。この場合、どちらが間違いということではなく、それぞれの理想とする形が異なるというだけで、この違いは競技成績などの達成には影響しないと考えられる。

この中で重要なことは、指導者が思い描いている「理想」と実際に部活動が行われている中での「現実」に乖

離があるかどうかという点に尽きる。指導者の理想に近づいていれば、競技成績などの部の目標や役割を果たすことで得られる人間的成長の到達が計画通りに行われる可能性が高い。一方で、本来やってほしいと思っている役割を別の立場にある者が行っている状態では、競技目標や人間的成長の到達目標を変更するか、到達までの方法を修正する必要が出てくる。

そこで本研究では、部活動の構成員の立場および役割について指導的立場にある者の理想と現実の差を明らかにすることを目的とした。

\*大学の部活動：ここでは競技レベルの向上を主目的とする団体を指す。

#### II. 方法

##### 1. アンケート協力者

H大学指定スポーツ部活動の指導的立場にある者(8名)の協力を得た。それぞれの指導履歴は3~25年であった。アンケートは部活動の最終目標がかかる大会の前(9~10月)に実施された。そのため、部の段階としては規範期~達成期にあたり集団凝集性も高まっている段階と考えられる。

##### 2. アンケート調査

アンケート用紙を別紙1に示した。部活動の構成員は、選手(上級生)、選手(下級生)、指導者(ヘッドコーチ)、指導者(アシスタントコーチ)、スタッフ(学生)、スタッフ(学生以外)、保護者の7つとした。アンケートでは部活動内の立場および役割を車(トラック)の運転に見

1) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

立て、回答を得た。立場については、1) 運転席、2) 助手席、3) 後部座席、4) 荷台、5) 車外とした。役割については以下のように分類した。1) 目的地（ゴール）を決める、2) 順路（行き方）を決める、3) 走行中の社内の環境を整える（会話など）、4) 出発準備を行う（車中で使用するモノの用意など）、5) 特に何もしない。

アンケート参加者には、立場および役割について記述されている以上のことは教示しなかった。これはより具体的に示すことで指導者自身の考える立場や役割を限定することを防ぐ狙いがあった。

また役割については、その役割を果たす貢献度の配分を記入させた。一つの役割について、貢献度の合計が必ず「10」となるように構成員に0～10で割り振らせた。

上記の立場および役割について、指導者の理想と現実を記入させた。理想および現実には存在しない立場については空欄にさせ、貢献度の合計にも加えずにデータの整理からも除去した。

### 3. データの整理

立場について、5つの立場にそれぞれ1～5点（運転席：1点、助手席：2点、後部座席：3点、荷台：4点、車外：5点）を与え、理想と現実の差分を算出した。また役割については、貢献度の数値をそのまま用い、理想と現実の差分を算出した。算出された差分を絶対値に変換し、8名分の平均値をそれぞれの立場および役割の理想と現実の差として示した。本研究ではサンプル数が少ないことや独自に考案したアンケート調査であることから統計処理は実施しなかった。

## Ⅲ. 結果および考察

指導者が捉えている部活動構成員の立場の差に関して図1に示した。数値の大きさは理想と現実の差の大きさを示している。また数値の方向性（+/-）は、立場を

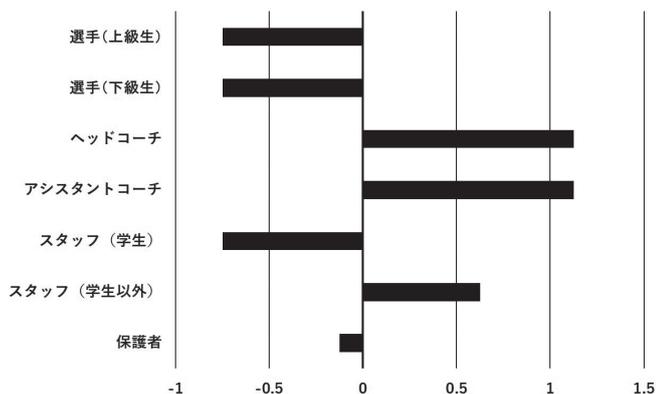


図1 理想と現実の差（立場）

示す位置のズレを示し、「+」であれば「理想としてもっと車外（運転席から遠い位置）にいて欲しい」、「-」であれば「理想としてもっと運転席（運転席から近い位置）にいて欲しい」ということを意味している。

まず理想と現実の差として大きかったのは指導者（ヘッドコーチ/アシスタントコーチ）の位置であった。+方向に向いていることから「理想の立場としてもっと社外（運転席から遠い位置）にしたいが、現実では運転席側に寄っている」ことを示している。また、一般スタッフにおいても方向性が+であった。その一方で選手（上級生/下級生）および学生スタッフを見てみると、-方向に向いていた。これは指導者等とは逆に「理想の立場としてもっと運転席（運転席から近い位置）にしたいが、現実では車外（運転席から遠い位置）に寄っている」ことを示している。

「運転席」は「運転を行う・舵を切る」ことを意味し、運転席に配置されることは実際に部活動運営を行う上で主体的に動いている人を指す。上記の結果から、指導者の評価としては、「指導者が部活動の主体となっていることが現状であるが、理想としてもっと学生（選手/スタッフ）が主体となってほしい」と考えていると推察できる。大学の部活動の本分は、学生が主体となって取り組むことであるが、H大学の指定スポーツ競技部活動においては、実際には指導者が主体となっており、学生がもっと意欲的に行動しなければならないことが示唆された。

次に、指導者が捉えている部活動構成員の役割の差に関して図2に示した。数値の大きさは図1と同様に理想と現実の差の大きさを示している。また数値の方向性（+/-）は要求度を示し、「もっとこの役割を担ってほしい」が「+」、「理想ではこの役割は必要ない（しかし現在はその役割を担っている）」が「-」を意味している。

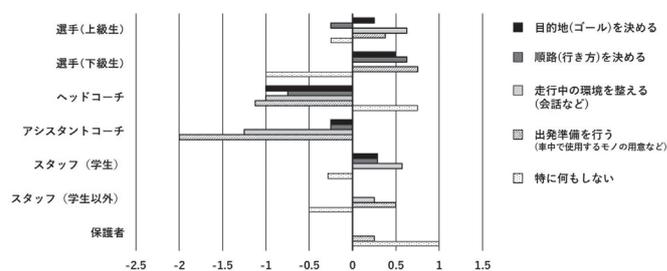


図2 理想と現実の差（役割）

結果として、選手（上級生/下級生）、学生スタッフについては、3者ともにもっと目的地（ゴール）を決めてほしいと考えていることが明らかとなった。逆に指導者（ヘッドコーチ/アシスタントコーチ）の役割からはその目的地の設定を外してほしい結果（-方向）となっ

ていた。図1の結果において、指導者は学生（選手/スタッフ）に主体的になってほしいという希望が読み取れた。この目的地の設定は「目標設定」を意味しており、希望としては学生に行ってもらいたいものの、現状では指導者が行っている状態であることが示された。このアンケートを取った時期は、9～10月であり多くの競技では最終目標に向かう大会前の期間となり、部の段階としては規範期～達成期にあたる<sup>3)</sup>。一般的にその時期は、集団内での意見や考え方の一致が起り始め、凝集（集団として集まる力）と協力行動が高まり（規範期）、集団目標に集団のエネルギーが向けられる（達成期）と考えられている。そのような集団として高みにいる時期であるのにも関わらず、目標設定で差が出たことはH大学の指定スポーツ部活動としての課題であろう。また、今年度については昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で十分に部活動が行えていなかった<sup>4)</sup>。チームビルディングの観点から集団として未発達になっても、負の影響を受けている結果と捉えられる。

次に指導者（ヘッドコーチ/アシスタントコーチ）に着目すると、ほぼすべての役割が負荷として考えられている。特に「走行中の車内の環境を整える」「出発の準備を行う」役割は、現状では指導者（ヘッドコーチ/アシスタントコーチ）が担う割合が大きく、学生に担ってもらいたい部分であることが明らかとなった。学生（選手/スタッフ）を見ても+方向に向いていることから、アンケート回答を行った指導者は学生にもっと取り組んでもらいたいと考えていることが示された。

全体の傾向として、H大学指定スポーツ部活動の指導者においては、学生に対して立場・役割ともにもっと主体的に活動に取り組むことを望んでおり、現状では指導者がフォローしていると感じていることが明らかとなった。

## 付記

本研究は、2021年度北方圏生涯スポーツ研究所・研究所選定事業として実施された。また、本研究に関して申告すべき利益相反状態はない。

## 文献

- 1) 文部科学省：生徒指導提要。部活動の指導における教員の役割，第6章，p144(生徒指導提要 第5章～第8章(mext.go.jp))，2010
- 2) 不動俊樹：愛媛大学のサークル活動の現状と課題。大学教育実践ジャーナル，2，35-37，2004.
- 3) Tuckman BW and Jensen MAC: Stages of small-

group development revisited. *Group & Organization Management*, 2(4), 419-427, 1977

- 4) 北翔大学学内施設を利用する部活動・サークル活動の基本ガイドライン，2020

